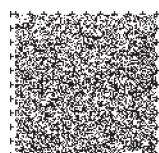
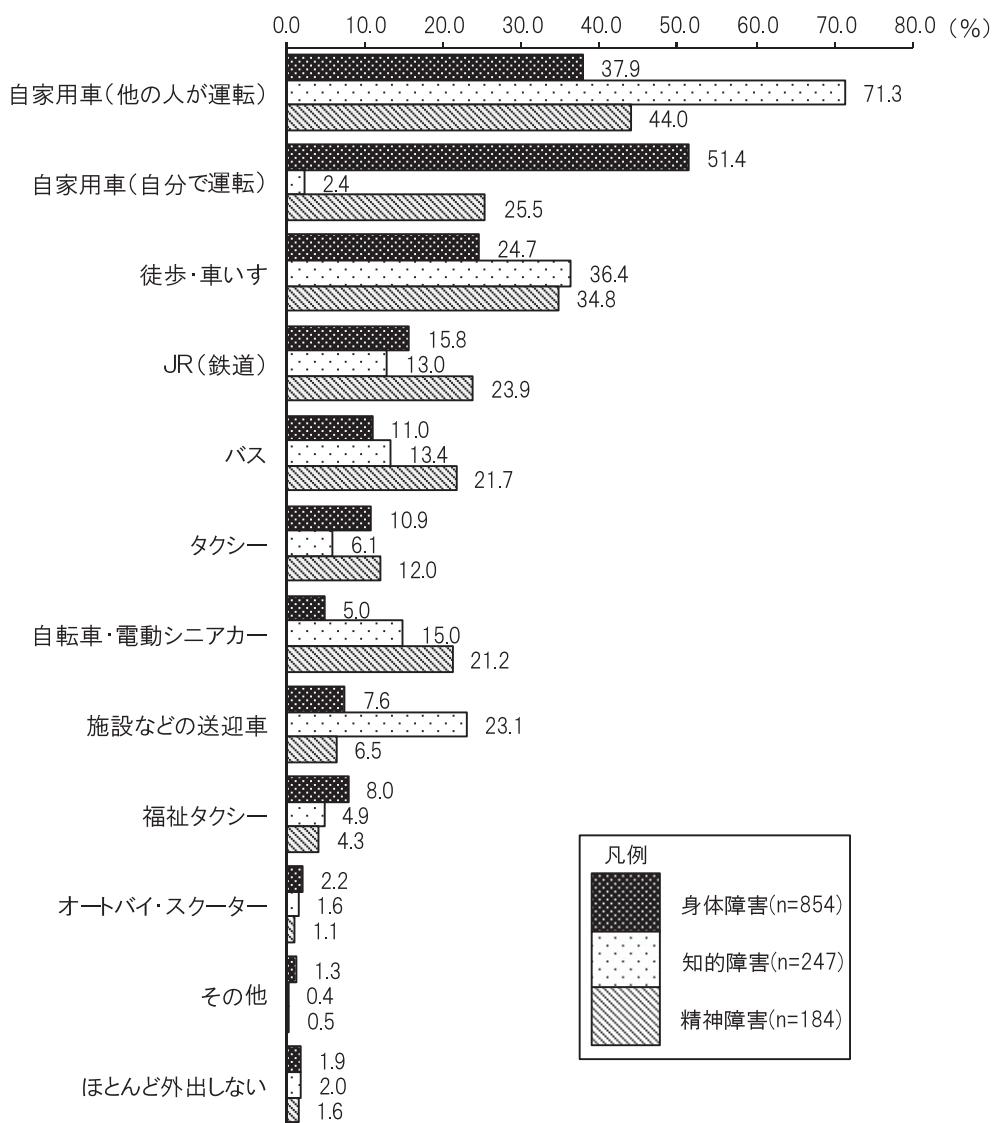


## 8 外出について

### (1) 外出時の主な交通手段

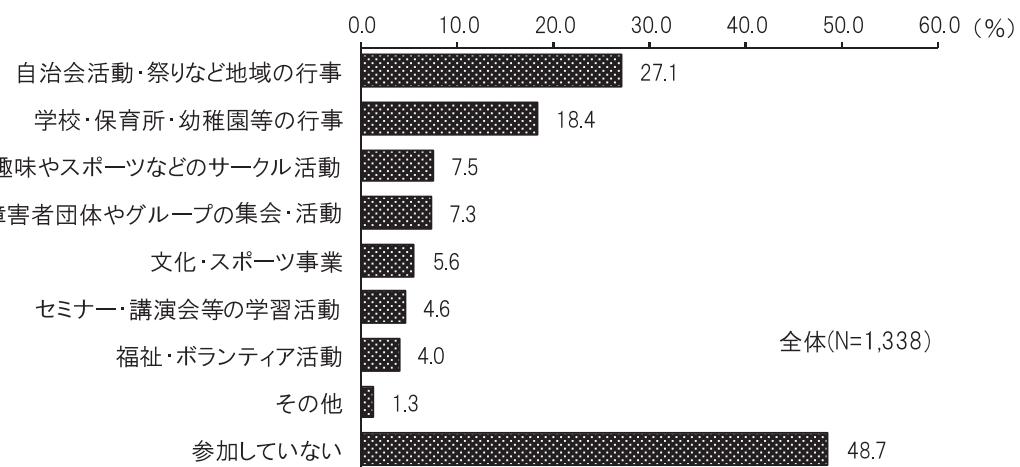
外出時の主な交通手段については、身体障害のある人では他の障害のある人に比べ「自家用車（自分で運転）」の割合が高く、知的障害のある人では「自家用車（他の人が運転）」「施設などの送迎車」など、精神障害のある人では「JR（鉄道）」「バス」の公共交通機関が、それぞれ他の障害のある人を上回っています。



## 9 社会参加について

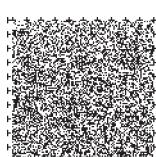
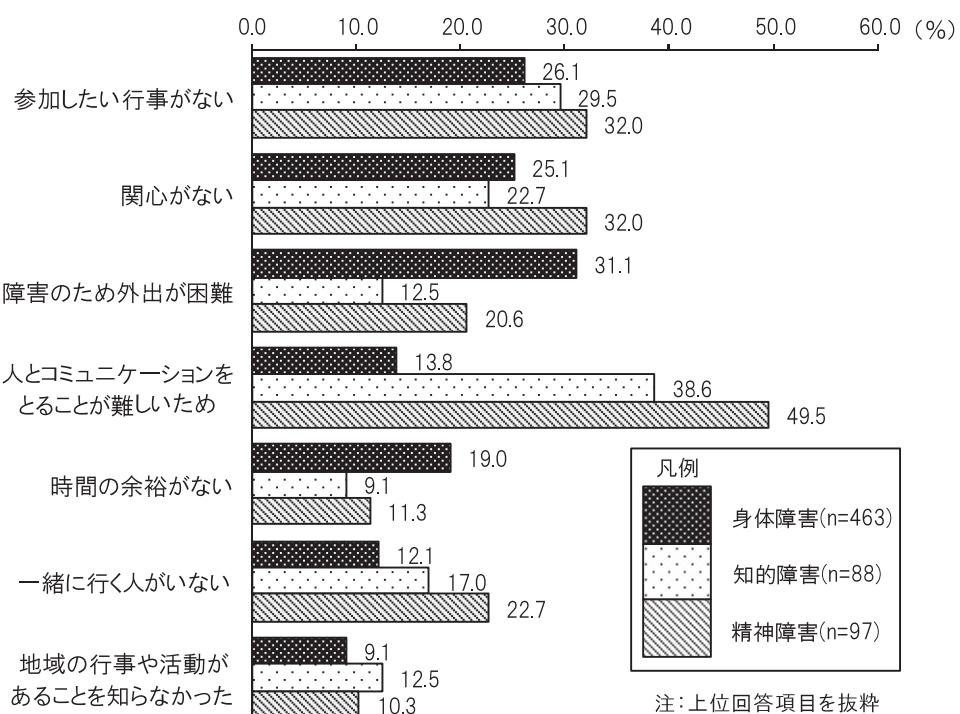
### (1) 地域の行事や活動への参加状況

最近1年間、地域の行事や活動については、「参加していない」の割合が48.7%であることから、全体の半数程度が何らかの活動等に参加しているとみられます。参加している活動等としては「自治会活動・祭りなど地域の行事」や「学校・保育所・幼稚園等の行事」などが高くなっています。



### (2) 地域の行事や活動に参加しない理由

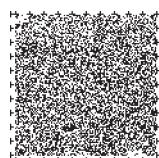
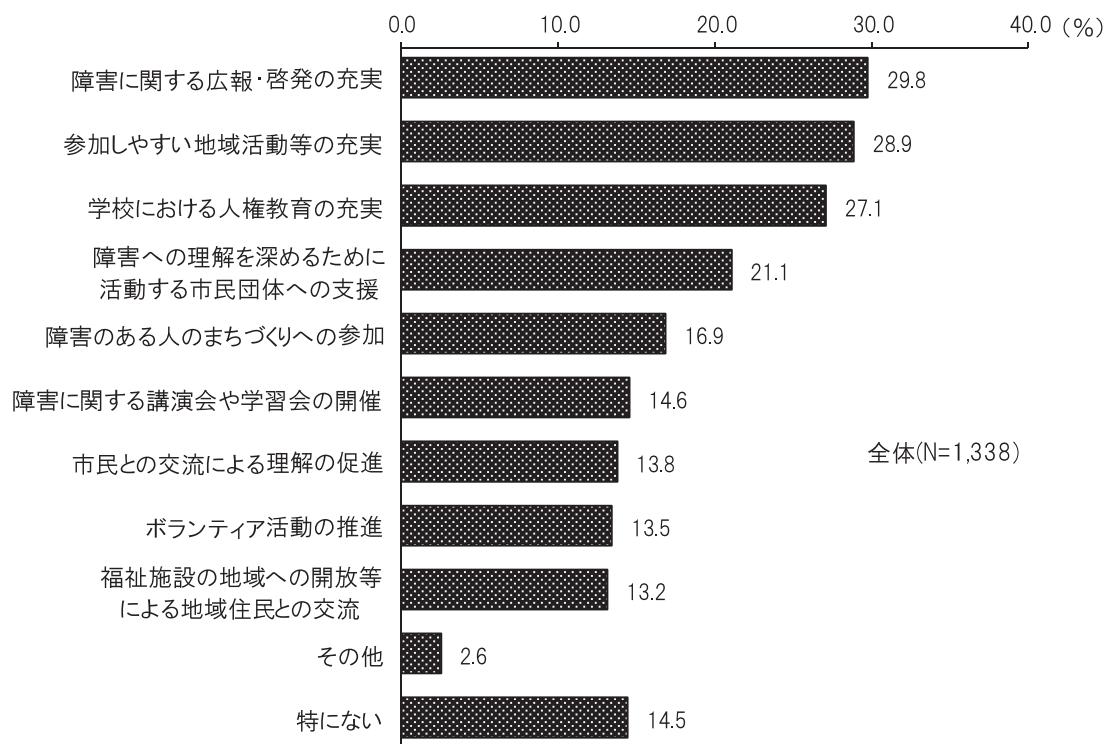
地域の行事や活動に参加していない人におけるその理由については、身体障害のある人は他の障害のある人に比べ「障害のため外出が困難」「時間の余裕がない」の割合が高く、知的障害のある人と精神障害のある人では「人とコミュニケーションをとることが難しいため」の割合が高くなっています。



## 10 障害のある人への理解について

### (1) 市民理解を深めるため必要と思うこと

障害のある人への市民理解を深めるために必要なことについては、「障害に関する広報・啓発の充実」の割合が29.8%と最も高く、ほぼ並んで「参加しやすい地域活動等の充実」「学校における人権教育の充実」が続いています。



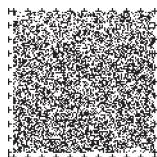
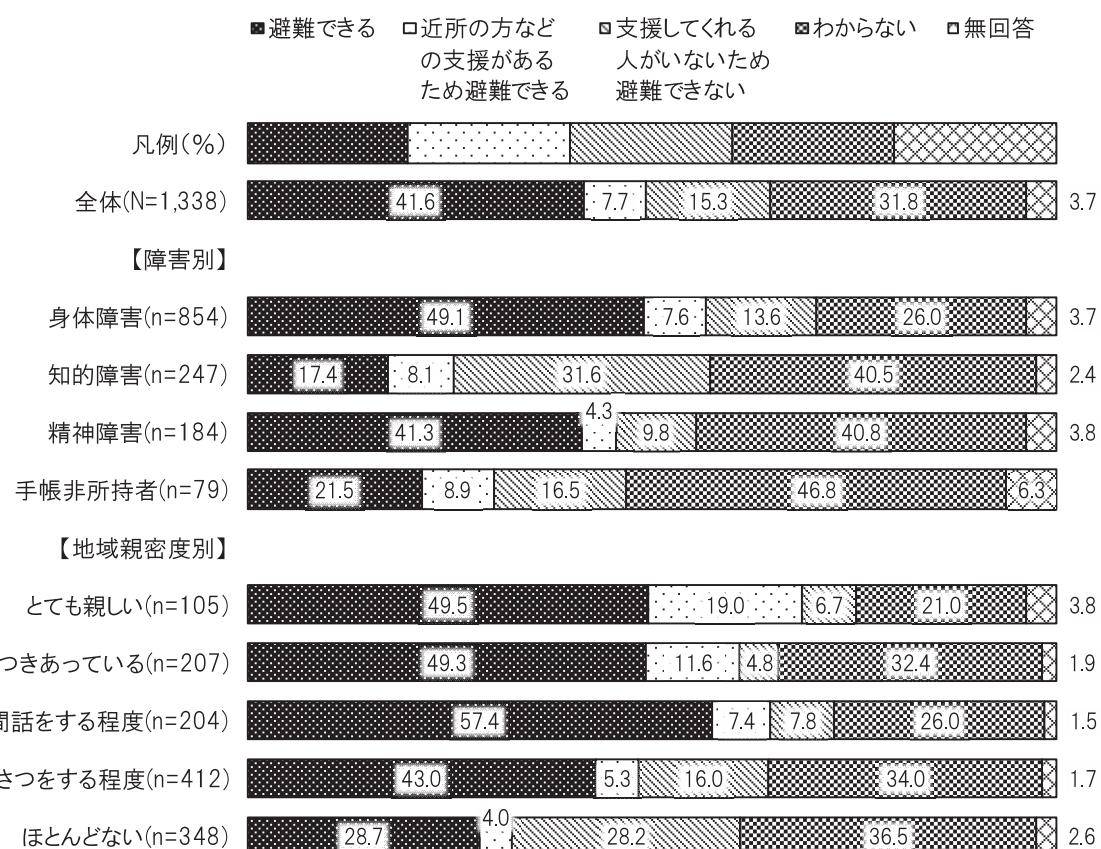
## 11 災害時の避難について

### (1) 災害時の自力での避難について

災害時の自力での避難については、「避難できる」が 41.6%、「近所の方などの支援があるため避難できる」が 7.7%で、合計 49.3%が「避難できる」と回答しています。

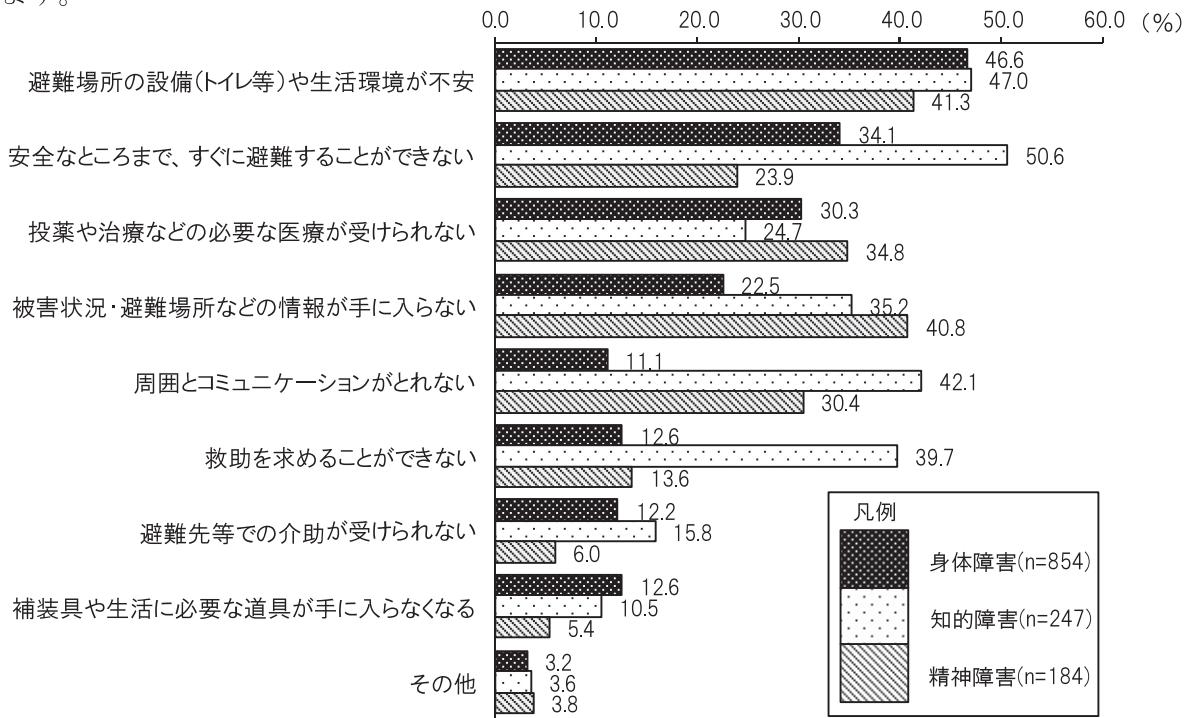
身体障害のある人及び精神障害のある人で「避難できる」の割合が高く、知的障害のある人では「支援してくれる人がいないため避難できない」が、他の障害のある人を上回っています。

地域親密度別では、とても親しいや親しく述べていている人ほど、「近所の方などの支援があるため避難できる」の割合が高くなっています。



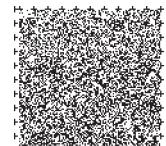
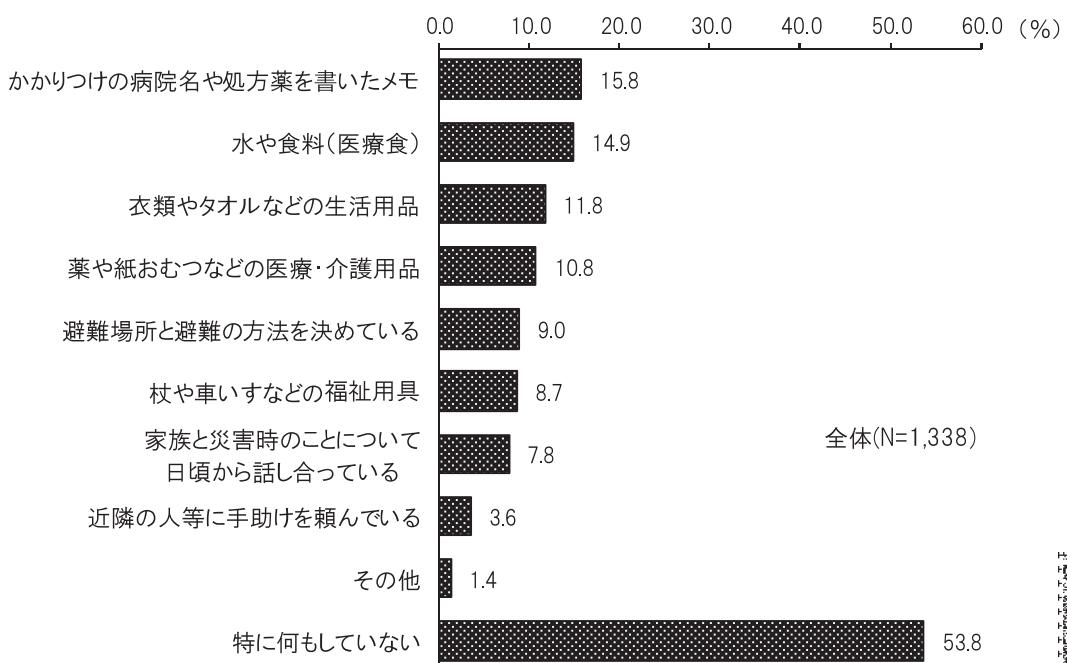
## (2) 災害時に困ること

災害時に困ることについては、知的障害のある人では「安全なところまで、すぐに避難することができない」「周囲とコミュニケーションがとれない」「救助を求めることができない」などの割合が高く、精神障害のある人では「被害状況・避難場所などの情報が手に入らない」が他の障害のある人に比べ高くなっています。障害のある人によって差がみられます。



## (3) 災害に備え準備しているもの

災害発生の備えについては、「特に何もしていない」の割合が 53.8%であることから、4割程度が何らかの準備をしているとみられます。備えとしては、「かかりつけの病院名や処方薬を書いたメモ」をはじめ、「水や食料（医療食）」「衣類やタオルなどの生活用品」「薬や紙おむつなどの医療・介護用品」などが高くなっています。



## 12 行政の福祉施策について

### (1) 行政の福祉施策の重要度について

障害のある人が地域で安心して暮らしていくための行政施策の重要度については、「とても重要」の割合が高い順に、「福祉手当の支給など経済的な支援」(59.7%)、「相談の充実」(55.6%)、「地域で安心して生活できる障害福祉サービスの充実」(54.9%)、「医療・保健・福祉の情報共有や支援の連携」(52.2%)、「交通の利便性の確保」(51.4%)となっています。

